

パネルディスカッション「治療でのコンピューター支援」

司会：大河内信弘 先生（水戸中央病院）

窪田 敬一 先生（獨協医科大学第2外科）

【司会の言葉】

既にコンピューター技術は様々な形で医療の分野に応用されている。電子カルテ、CT や MRI のように必要不可欠な医療機器となったものも数多くみられる。今後は検査画像や、病理診断、遺伝子診断をはじめとする診断から治療の選択まで幅広い分野でコンピューター技術の応用がなされると期待されている。肝切除においてコンピューター支援は手術シミュレーションの時代から、プロジェクション・マッピング、超音波検査、磁気センサー、オプトトラックなどとコンピューター支援技術を組み合わせた手術ナビゲーションへと移りつつある。今回は肝癌の治療とコンピューター支援をテーマとして取り上げ、肝がんの治療におけるコンピューター支援の現状と研究・開発に関する発表をお願いしたい。